

平成28年度事務事業評価シート(27年度実績)

◎基本情報

<b>事務事業名</b>		板東俘虜収容所整備活用事業		<b>担当部署</b>	教育委員会 生涯学習人権課		
<b>総合計画体系</b>				<b>根拠法令 計画など</b>	文化財保護法・鳴門市ドイツ村公園実施基本計画		
<b>基本政策(大項目)</b>	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり			<b>事業期間</b>	<b>開始</b>	平成 19 年度
<b>政策(中項目)</b>	2	伝えたい 魅力あふれるまち なんと					
<b>(小項目)</b>		文化財		<b>終期</b>		未定	
<b>施策</b>	3	文化財の保護と活用					
<b>基本事業</b>	2	文化財の保護と活用					

◎事業概要(PLAN)

<b>事業対象</b>	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 板東俘虜収容所跡						
<b>事業目標</b>	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	全国で唯一残る第一次世界大戦時のドイツ兵俘虜収容所跡を国指定「史跡」となることを目指し、指定後、観光や文化交流および地域活動の拠点として整備する。						
<b>事業計画</b>	27年度に何を計画していたか	①2ヶ年度で行う境界確認作業のうち、指定申請範囲の北部について作業を実施する。(※南部は28年度に実施予定) ②指定申請に必要な土地所有者の同意書の取得作業を実施する。						
<b>成果目標</b>	事業目標の達成度合	<b>指標名</b>	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	<b>単位</b>
		国指定史跡化	60	70	80	90	100	%

◎実施結果(DO)

<b>事業実施内容</b>	27年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	①2ヶ年度で行う境界確認作業のうち、指定申請範囲の北部について作業を実施した。 ②土地所有者の同意取得に必要な境界確認に関する土地の登記簿等、資料調査を行った。						
<b>事業実施手法</b>		<input type="checkbox"/> 市実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
<b>指標名</b>		26年度実績	27年度実績	28年度目標	29年度目標	30年度目標	<b>単位</b>	
<b>活動指標</b> 実施した事業の活動量を示す指標	1	史跡の環境整備作業	50	50	50	50	50	%
	2	指定申請範囲に関する土地境界確認作業および指定申請書類の作成	40	60	70	100	-	%
<b>成果指標</b> 対象にどのような効果があったか示す指標	国指定史跡化		60	70	-	-	-	%
	目標達成率(実績/目標)			100.0	-	-	-	%
<b>今年度の進捗状況</b>	計画どおり		事業全体の進捗状況			ほぼ計画どおり		

(千円)

<b>財源内訳</b>	平成27年度	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
		当初予算額		0	0	0	0	5,384	5,384
		全体予算額		0	0	0	0	11,530	11,530
		決算額		0	0	0	0	5,177	5,177
		繰越額		6,146	0	0	0	0	6,146
	人件費		正規職員(6,859千円/人)	臨時職員(2,071千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.3	0.5	3,093		8,270			

【事務事業名:板東俘虜収容所整備活用事業】  
(千円)

事業費推移	年 度	26年度決算	27年度決算	28年度	29年度	30年度
	事業費	1,591	5,177	6,229	-	-
	うち一般財源	1,591	5,177	83	-	-
	人件費	1,983	3,093	2,058	-	-
	総事業費	3,574	8,270	8,287	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		国指定史跡の申請に向けた取り組みを進めることができた。
	効率性	B:概ね効率的だった		予算化事業については、土地境界確認事業を実施することができた。
②成果に対する評価	指標名	国指定史跡化		国指定史跡の申請に関する事務事業については、土地境界確認事業を実施することができた。
	目標	70	%	
	実績	70	%	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		B		国指定申請に向けての活動を行ったが、予定していた当該年度分の作業を一部実施できなかったほか、土地所有者の同意取得作業に着手できなかったため、B評価とする。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	①指定申請範囲に関する土地境界の確認作業を実施し、並行して土地所有者の同意取得を進める。 ②関係する土地所有者の人数が多いため、土地境界確認や同意取得などに、多くの作業量と時間がかかることが予想される。 ③現段階で実施可能な整備活用策については、指定前後であっても、実行に移していくよう努める。 ④史跡指定後の保存活用のあり方について、整備活用検討委員会を立ち上げて議論を重ね、目標設定を含め、計画を示していく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	平成28年度	①指定申請範囲に関する土地境界の確認作業を実施し、並行して土地所有者の同意取得を進める。 ②現段階で実施可能な整備活用策については、指定前および指定後の計画策定中であっても、実行に移していくよう努める。			
	平成29年度	①指定申請範囲に関する土地所有者の同意取得を進め、指定申請書類を調えた後、国に提出する。 ②現段階で実施可能な整備活用策については、指定前および指定後の計画策定中であっても、実行に移していくよう努める。			